

議長（竹島ユリ子君） 4番 川崎和夫君。

4番（川崎和夫君） おはようございます。

通告してあります3点について質問いたします。

1点目は、舟橋中学校だより2月号に、昨年12月に実施された全保護者を対象とした学校評価アンケートが実施され、その結果が掲載されておりました。アンケートの結果についてどのように評価されるのか、教育長のお考えをお聞きいたします。

アンケートとは、ある目的を持って意識調査をするものであると思っております。学校評価アンケートとしては、保護者への設問として、あるいは生徒自身の設問と思われるものもあったように思われます。

アンケートの結果で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的回答は、全体的に非常に高いと思っております。設問1の「学校はきめ細やかな学習指導」は75.7%、設問6の「学校行事に参加しやすかった」は83.8%、最後の設問10「学校の情報公開」については90.4%となっており、非常に開かれた学校運営であると感じられます。一般論として、学校評価をどのように感じられたかをお伺いいたします。

2点目の質問は、明和議員の質問と似ておりますが、児童生徒の顕彰についてであります。児童生徒のすぐれた個性を発見し、これを顕彰するための制度化について質問をします。

子どもたちの健全育成は家庭や社会の願いでもあり、また責任でもあると考えます。人間だれしもよい面を持っていると思います。児童生徒のすぐれた個性を発見し、その面を伸ばすことは健全育成に効果があるかと思えます。表彰の内容は、学業やスポーツにとどまらず、社会に奉仕している者、学芸にすぐれている者を小中学生を対象に実施してはいかがでしょうか。考えをお伺いいたします。

3点目の質問は、村立図書館の愛称についてであります。

日本一小さな舟橋村の図書館で、2008年7月にカモシカが入り込んだ出来事が舟橋図書館司書の高野さんより絵本となりました。内容は非常に単純な出来事でしたが、カモシカ入館の事実を絵本とした図書館の宣伝とするその発想は見事なものであると思います。

舟橋図書館のすばらしさは、派手なイベントに頼らず、質の高いサービスと有能なスタッフにあるのではないかと思います。住民1人当たりの利用率の高さで知られ、またカモシカが来たことで有名になり、また絵本で有名になりましたが、これを一過性のブ

ームとしてではなく、我が村の図書館として長く村民に親しまれるよう愛称として認定してはどうでしょうか。お考えをお伺いします。

議長（竹島ユリ子君） 教育長 塩原 勝君。

教育長（塩原 勝君） 川崎議員の質問にお答えします。

学校の評価は、現在二通りやっているといます。1つは、今ありましたようなアンケートの調査、もう1つは、学校評議員制度というのがあります。これは県下のすべての小中学校がやっているはずであります。アンケートにおきましては、高い評価が出る場合と、低い場合もあります。高い場合には、高くなったところを見極めて、ますますよくなるように。また、低い評価が出たら、その原因はどこにあるのかということを見極めて改善していくということだろうと思います。

そういったことで、12月に全保護者を対象に調査をしたわけでありまして。回答の結果であります。全10項目のうちで、初めの学習面での調査結果は、今ほどもありましたように、8割近い「おおむね良好」の回答がありました。これらは、わずか各学年1学級ずつの中学校でありながら、非常勤も含めると15名の教員がおります。そういった中で非常に目が行き届いているということと同時に、寺井校長をはじめ全教職員が一丸となって学習指導に当たっているというようなことがあるかと思えます。

しかしながら、理解度とか習熟度という面におきましては個人差もありまして、すべてがすべて皆よいというものでもありません。ただ自慢できるのは、ここ何年間かの全国一斉の学力テスト等におきましては、県内でも特に高い位置にあったということは、誇れるのではないかと考えております。

高校受験も終わりました。そのほうの結果がどうかは今ちょっと心配なところでもあります。これからも、そのばらついてきた中での問題点につきましては、少人数指導あるいはグループ学習等で各生徒の能力に応じたきめの細かい学習指導が必要ではないかというふうに思います。

次に、各生徒の学習に対する達成度、充実感の設問があります。ここにおいては、「おおむねよい」としたのは保護者では50%前後であります。どちらかという、小学校のときには、まだそういった意識も低いのでありますが、中学校に入って、例年かなりよくなります。それでもやはり1年生、2年生は低くて、進学が目の前に来た3年生になりますと、非常にいい状態になってきております。いずれにしましても、この点につきましては、自主的に学習する態度や能力をつけさせていきたいなというふうに考えて

おります。

続きまして、体育大会や学習発表等の学校行事を通じて、活躍の場があったかどうかということを保護者に聞いておるわけでありますが、約8割が「おおむねそう思う」というふうに答えております。自らが学校あるいは学校のいろんな行事の中で自分の存在意義というものを認めながら一生懸命活動し、お互いに満足し合っている。そういったことが保護者にも伝わり、そういった行事に保護者が参加するのほほかのところよりも高いのではないかと考えているところであります。

こう言いながらも、いじめや引きこもりというようなことについて、特に去年は神奈川県、群馬県でいじめによる自殺等もありました。舟橋村でも全くないかと言えば、いじめらしきものはありますが、大事に至らない前に見つけて対処しており、楽観しているわけではありませんが、安心しているところでもあります。

そういったことで、舟橋中学校では心の教室相談員というものを設け、カウンセラーを配置し、非常勤ではありますが、スクールカウンセラーもおります。そしてまた、特に引きこもりや深刻な家庭環境下にある生徒に対しては、スクールソーシャルワーカーを県から非常勤で派遣していただいております。

いずれにしましても、日々の学校生活を充実させるということと、学習意欲の向上というのは密接に関係しておりますので、生徒にとっての学級活動の中で不安とか不満というものを少なくして、学習面に集中できるようにしてやってやりたいと思っております。

冒頭にも言いましたけれども、こういったアンケートというものにつきましては、目的あるいは公表しながら、その趣旨を十分村民の皆さんにも理解していただきたいと思っているわけでありまして、実態の把握と地域に開かれた学校づくりということで、これからも年に何度かやっていくことになると思います。

なお、学校のことにつきましては、かつては非常に閉鎖的でありましたが、近ごろではブログ形式やその他の方法で、学校ではどういったことをやっているかということについて、関心のある方には十分見ていただけるように、理解していただけるようにやっているつもりであります。

そういった中には、授業や学校行事、給食の献立、部活動などいろいろ情報公開もやっているのですが、また利用していただきたいというふうに思っております。1点目については、これを回答としたいと思っております。

2点目につきまして、子どもたちにもっと表彰してやればどうかという質問であります。竹島議員が17年の6月議会で全く同じような質問をされました。そのときに答えた、そのころの表彰の実態をもう一度簡単に、といたしましては前回は非常に長くお話ししたわけですが、少し話ししてみたいと思います。

小学校では、まず立山区域に入っておりますので、区域の連合体育大会、区域水泳大会、区域科学共同研究、この3つのものを優秀な者について表彰することになっております。

次いで、校内で選んで、それを立山区域に出すものとしましては、書き初め、版画、それから校内独自でやっているものでは、漢字、計算、その他あります。応募作品としては、作文、詩、図画、ポスター、学校の委員会活動で表彰しているものもあります。対外的なものとしては、小学校等でも卓球、野球、サッカー等で優秀な成績をおさめた場合には表彰があります。そのほか、一人一人の個性を言葉で褒めるというようなやり方しております。先生によっては、学級内で賞をつくって実施しているものもあります。

次に、中学校では中体連のスポーツ活動の表彰があります。それらは賞を受けたら必ず校内で伝達表彰をやっております。それから、中学校の文化連盟の活動における賞もあります。また、舟橋中学校でもよく受けるのですが、富山県善意銀行の小さな親切、隠れた善行の表彰があります。そのほかにも富山県をよくする会の表彰、JA共済の関係の書道関係の表彰、これも毎年小中学校が受けております。地域の安全ポスターや安全標語、また中学生の14歳の挑戦を中心とする生活体験発表大会の表彰、学校保健会の表彰、中学生の人権作文コンテストの表彰、納税思想の普及に作品を出して表彰を受けております。

そのほか、個人については書き初めや写生、生徒会での球技大会、運動会では競技と応援とマスコットの3部門の表彰をやっております。クラス単位では、合唱コンクールで表彰を行っております。

このように個性豊かで高く評価されるものについてはそれなりに表彰はしておりますが、以前のように優良賞とか皆勤賞というものは、いろいろ問題もあつたりして、あるいはまた仮に言いますと、皆勤賞で表彰すると、無理して学校へ行かせて何をやっているのかということで、ほとんどの学校は今ではやっていないはずであります。

いずれにしても、人が人あるいはその人の作品を評価するわけですから、観点が

しっかりしていないと表彰は難しいものである。非常にいい点があるにもかかわらず、いろんなねたみや、何でうちの子は評価されないのかといった問題も出てくるわけで、私は表彰は反対ではありません。まだあってもいいかなと思ったりしておりますが、学校に聞いてみますと、いい点も幾つも挙げてくれますが、これ以上は必要ないのではないかと、結果として小学校も中学校もそういうふうに言えるわけであります。

だれが、いつ、どのように、どういう観点で評価するかということの難しさもあるわけでありまして、ただ、私思いますに、先ほども村の顕彰制度の話がありました。これからの夢のあるむらづくりのために、小中学生がいろんなことを考えたり、何かつくったりしてくれた場合に、やはり大人の顕彰と同時に、小中学生に対する村の表彰もあっていいのではないかと考えているわけであります。

そういったことで、舟橋村のすばらしい未来像をいろんな形で夢を描いて、作文やいろんなことで夢を持ってくれる若者たち、そういう子どもたちを表彰して、またほかの子どもたちにも影響を与えていくということはいいことではないかと思っております。

3点目の、カモシカ図書館の件であります、150年余りに飛越地震がありまして、相当大きな地震だったようであります。大鷲、小鷲が崩れ、常願寺にもものすごいダムができ、地震を忘れたころ、そして大雨が去った後にものすごい土石流が立山町、舟橋村を襲いました。

何でもこういうことを言うかといいますと、そのちょうど1年前に、竹内の神明社のものすごい大きな松の木に、これもまたものすごい大きなクマが駆け上った。そして、これを舟橋村の相当の人たちが見に来て、立山町からも狩猟の名人か何かが出来たようで、結果的には殺してしまったと。そのあたりで地震と土石流が起きたということが舟橋村誌に載っております。それ以来、舟橋村では、クマの情報はなかったわけではありませんが、まともに見たという話は聞いておりません。

しかし、カモシカはどうかというと、ずっとここ何年前から、たまに村内で見かけておりますが、幸いと言うべきかどうか分かりませんが、図書館に自動ドアから入ってきたということが、その日のうちに全国に伝えていただきまして、マスコミの皆さんのおかげもありまして、それ以後何十回にわたり、いろいろと載っております。小さな村のこの図書館が、それがなくてもいろんな面で知名度が高くなってきた上に、一層高くなったのではないかと考えております。

愛称のほうはと言いますと、私自身ちょっとわからないのですが、愛称というのは、

自然発生的に出てくるものかなと思うので、そんなに悪いイメージのものではないと思います。それを聞くだけでほのぼのとするようないいものでないかというふうに考えますので、愛称がカモシカ図書館であることは非常に歓迎するところであるわけですが、どこかで認めなければならないものかどうか、要するに認定するものなのかどうかというのはちょっとわかりませんで、認定する方法がいい方法であれば大賛成であります。

以上で回答とさせていただきます。